
Amnesia

癒々

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

A m n e s i a

【著者名】

癒々

N Z M

【あらすじ】

「　　」=トウ=リヴェラ。

私の名前。でも、私には空白が埋められない。

ミネル=トウ=リヴェラ。

今私の名前。これは、アリシアが付けてくれた。

色々なことが、少しだけ、少しずつ消えている。

記憶。それはとても貴重で、凄く壊れやすい。

私の記憶は砕けて散ってしまった。何故?覚えていない。

でも今は、記憶よりも大切なことがある。

そう、今私の目に前に居る、私を守ってくれる仲間を、死なせない
こと……。

The end in
g world = the starting world

Profile (前書き)

別サイトで投稿していたプロローグ。
一年前の ~~物語~~ ぶりを存分にお楽しみください。

…自分でよくわからなくなってきた件(・・・)

欠けた月が三つ、藍色の空にぽつかりと浮いている。

包帯の巻かれた右腕を押さえながら、私は****を追った。何処に行くんだろう。

****は足が速い……あ、見失っちゃった……。むう、でも魔力を追えれば、遅くても****に辿り着けるはず。夜のお散歩も悪くない。ゆっくりついでにうかな。

と、思っていた矢先、****の魔力の波動が消えた。少し先から、血の臭い。それから、数十の魔力の影。これは……

嫌な予感がして、走り出す。

でも、走って間もなく、体力が尽きて座り込む。

自分の体力の無さを恨む。今度****に鍛えてもらおうかな。

「しようがない……っ」

立ち上がって、手を空に翳す。

怪我を負つたままの腕が、悲鳴を上げた。

痛みを無視し、魔力を足元に集め、そこに風を起こす。

黒くて長い髪が、足元の風で舞い上がるのを感じ、頃合を見て無言でジャンプ。

「あい・きやん・ふらい！」なんて言っている場合じゃない。

****が危ないと、本能で感じていた。

地面から飛び立ち、まず上昇。少し経った後、魔翼が背に浮き出で

きた。

飴細工のような細い翼。

確認するまでもない。深呼吸をすると、一気に＊＊＊＊の向かつた方角に飛ぶ。

「＊＊＊＊…！」

僅かに残っている＊＊＊＊の魔力を肌を感じ、冷や汗をかいだ。

飛び立つてから数分、血の臭いが濃くなってきて、下を見た。

目に映つたのは、赤い髪と…鮮血。

「＊＊＊＊…！」

声に気づき、＊＊＊＊を囲んでいた魔法師は、一斉にこっちを向いた。

皆、黒いローブを羽織つている……昼間の人たちだ。

向ひつけ一斉に詠唱を始めた。炎、水、氷、大地……属性が多くぎる。

魔法陣が、彼らの足元に溢れ出す。

何故、攻撃するんだろう。

色とりどりの魔法陣の片隅で、＊＊＊＊は呼吸していた……虫の息で。

＊＊＊＊の赤い髪は、自身の血で鮮やかさを増していた。
この人たち……＊＊＊＊になんてことを……。

そつ思つたとき、私の中で何かが音を立てて切れた。

「…」

風を起す。
光を呼ぶ。

助けなあや。

* * * * を、助けなあや…！

「 」

幾つもの光の筋が、私を包んだ。
ズキン、と右腕が叫び声をあげる。傷口から、血が滲み出でてきたこと
が解る。

でも、詠唱は止めなかつた。

「 」

魔法師から、数万はある数の魔法が同時に放たれる。
しかしそれは、光の筋が一つずつ包み込み、光となつて消えた。
怯まずに、第一弾。炎が、私を襲おうとした。
… そう、この時。

この時、私の魔法は成立した。

空中に浮いたまま、手を祈るように握り締める。

背にあつた魔翼が消え、金色に輝く光の粉となり、辺りを一瞬明る
くした。

その一瞬の後

…

何も、見えない。

真つ暗。

闇の中で一人。

ここは…?

「＊＊＊！」

誰かが呼んでる。ううん、叫んでいるみたい。

誰が? 誰を?

「＊＊＊！」

聞こえないよ。聞き取れない…。

誰を呼んでいるの?

何も見えない…彼方は誰?

耳鳴りがする。

私は、何で此処に居るんだっけ…。

…苦しい。

怖い…。

此処から出して。お願い、出して…！

誰か…！

「＊＊＊！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7903m/>

Amnesia

2010年10月28日07時00分発行